磯津通信

磯津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磯津南町2839
野田之一さん気付

Dona Nobis Pacem
（ドナ ノービス パーシェム）

ボーイスカウト、ＹＭＣＡ、教会の青少年たちの野外活動の時などで、よく輪唱が歌われる。代表的なものでは「静かな湖畔の森のかげから……」、「世界はみな消えても音楽だけは無くならない……」などがあるが、「Ｄｏｎａ　Ｎｏｂｉｓ　Ｐａｃｅｍ……」もよく歌ってきた。

2014年度のノーベル「物理学賞」に、日本の赤崎・天野・中村の3研究者が青色LED発明で選ばれたことは、世界中の身近な生活に役立つ快挙として本当に嬉しい。一方、「平和賞」には、命がけで子どもの教育権を訴え続けている17歳のマララさん（パキスタン）と、国境周辺で紛争が残る隣国インドのカイラシュ・サトヤルティさん（60歳）が、児童労働から多くの子どもたちを救出してきた人権活動家として、共に選ばれたことに、深く感銘している。

そして、授賞式はノーベルの祖国スウェーデンのストックホルムで、彼の命日12月10日に行われたが、例年「平和賞」だけはその1日前に、当時戦争中であった隣国ノルウェーのオスロで渡されるのは、ノーベルの平和への遺志を尊重したノーベル財団の、学ぶべき姿勢を伝えてくれる。

報道写真家桃井和馬さんの、男が梯子をかけて高い所の施錠をしている写真の説明に、「12世紀、十字軍からエルサレムを奪還したイスラム教徒は、これ以上の宗教対立を防ぐ意味で、また、過激化したイスラム教徒がキリスト教徒の聖地を破壊しないように、聖墳墓教会（キリストが十字架の死から復活までの三日間葬られたと伝えられている地に建てられている教会）の鍵を、イスラムのジュデ家に委ね、代々鍵を管理し毎日の明け締めをしてくれている」、とのことである。

日本人もこれからイスラムの人たちと仲良くしてゆくことが大切であるが、テロで名高いタリバンやイスラム国がイスラムの決して全てではない。イスラムの叡智に学ぶべきだ。

年末の衆議院議員選挙では、自民党が3分の2を獲得し、我々国民の多くは、地球回復・世界平和・子孫安寧の理想を捨て、目の前の経済問題を選んだ。夜明けはまだ遠い。

戦争は人類悪の根源である。日本の「平和憲法」は世界の夢であり、今年のノーベル平和賞の候補にも挙げられた。残念ながら受賞は逸したが、私たちは「Dona（神よ）　Nobis（与え給え）　Pacem（平和を）」と口ずさみながら、自分のやるべきこと、出来ることを一つ一つ実践してゆきたい。

四日市公害患者と家族の会事務局長　塚田盛久

《　連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磯津環境学校情報室　》